

項	教育目標	重点目標(努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4段階評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた力を伸ばす 特色ある神戸の教育を更に発展させる	「ひと」を「たから」ととらえ、神戸を愛し、支える「人材」を地域とともに育てる学校	神戸の魅力を知り、将来の神戸を担う人材の育成	産学民公の連携の推進	通年型インターンシップの実践(課題) 受入企業の確保	3	次年度は選択している生徒が3名と少ないが、今後は受入企業等を今後を見越して確保を図る。	・専門教科に特化した教育が多いので、素晴らしい学校だと思う。
			国際的な視野の育成	「道徳の日」に「国際理解教育」を取り上げた。教育委員会が主催するシアトル派遣プログラムに2名参加した。(課題) 商業教育における国際理解教育	3	今後とも継続的に国際理解教育を展開していき、グローバル人材の育成、商業科高校における国際人材の育成を進める。そのためにも、KICPの活用、近隣大学等の連携を深める。	・専門教科に特化した教育が多いので、素晴らしい学校だと思う。
			課題解決能力の育成	「課題研究」において、神戸の課題等を生徒が設定し、その解決案を考えた。(課題) 課題研究の指導法の確立	2	課題研究の指導法の確立のために、担当教員が外部の研修等に積極的に参加する。	・学校による自己評価は厳しいようだが、子供にとってみれば大変良かったと思う。
	思いやりや礼節を重んじ、職業人としての責任や倫理観を持って行動できる人材の育成	課題解決型道徳の推進	「モラルジレンマ」の実践を年間を通して行った。(課題) 3年間を終えた段階での取組の検証	4	3年間で蓄積したノウハウをブラッシュアップして、より効果的な指導を行う。	・総合的な学習の時間で、外部講師を活用し、教員の負担を減らす。	
		授業規律及び規則正しい学校生活の確立	指導部・MSCが中心となって、日々の生活支援を行った。(課題) 今後もSCを交えて多様な生徒への対応を検討していく必要がある。	2	全教職員で足並みをそろえた指導・支援を行う。基本的な生活習慣の確立を進める。SCとの定期的な情報交換会の開催	・規律、基本的な生活習慣は、社会に出てから、非常に大切となってくるので、特に力を入れていただきたい。	
		いじめをしない、させない人間関係の構築	いじめアンケートを毎学期実施し、実態把握に努め、気になる生徒は個別の聞き取り調査を行った。(課題) SNSの書き込み等への対応	3	「いじめアンケート」だけでなく、生徒の平素の様子も十分に観察し、いじめの「芽」を摘む取組を心掛ける。	・規律の確立は、特に学校生活のなかで、人間として備えておくべき大事なことだと感じる。基礎の部分人間としての土台づくり、基礎学力の向上にもつながると思う。	
	社会の変化に対応できる専門知識・技能や柔軟性をもった人材の育成	少人数授業・目標別授業展開	「簿記」や「情報処理」の授業にて、少人数・目標別授業を展開した。(課題) 他教科での対応	3	少人数教育の成果を把握するとともに、他教科で展開できるかの検討も行う。	・できるだけ教員の負担が増えないような形で改善を図るべきである。	
		2年生より類型に分かれて専門性を高める	「会計類型」と「情報類型」の展開(課題) 進路実現も踏まえた振り返りの実施	3	今年度、初めての卒業生を送り出したが、そのフィードバックを次年度以降に取り込む。	・中学生にとって、資格が取れ、卒業後に学習した事が直接社会で役立つ教育内容である。目標が明確にできることは大きい魅力である。	
		3年生では多くの選択科目を配置し進路や興味関心に応じて科目選択を行う。	2年生では7科目、3年生では31科目の選択科目を設定した。(課題) 選択科目の精選	3	生徒のニーズを把握し、H32年度以降のカリキュラムに反映する。	・生徒が集中できる授業の工夫を今後も望む。	
	教職員・学校の高め魅力と実力を育てる学校	計画的・系統的な指導計画の作成	全ての科目においてシラバスの作成した。(課題) 指導と評価の一体化	3	生徒が自己の学習到達度と課題を正確に把握できるような評価方法を各教科で確立する。	・効率的な情報共有の方法も検討すべきだと思う。	
		目標に準拠した観点別評価の実施・指導と評価の一体化の推進	職員会議において研修を行い、観点別評価の充実を図った。(課題) 指導と評価の一体化	3	生徒が自己の学習到達度と課題を正確に把握できるような評価方法を各教科で確立する。	・学力をつけるための評価方法について、改善の余地があるかもしれない。「分ける授業」の創造に力を入れていただきたい。	
		「分かる授業」「力のつく授業」の実践	授業公開週間、生徒・保護者アンケートの実施。兵庫教育大学浅野教授による外部評価の実施(課題) 外部評価の活用	2	年度末に浅野教授による研修を行った。今後とも教員間の研修も進めていく。	・授業内容に関しては、見学してもらえれば、保護者の皆様にも理解してもらえと思う。保護者が理解すれば、子供たちも勉強意欲向上に向けての保護者からの言葉かけが期待できるのではないかと。	
市民が自らを共学に子供に支えたり	学校ホームページの充実	ほぼ毎日ホームページを更新した。内容に関しては、今後整理・改善を行っていく。(課題) 内容の精選	3	次年度は学校ホームページ検討委員会を開催し、掲載内容の精選に努める。	・学校ホームページ等の充実など、多方面への学校広報を行ってほしい。		
	オープンハイスクール・学校説明会・中学校訪問・中学校での進路説明会の実践	オープンハイスクールでは1098名、学校説明会では299名の生徒の参加があった。(課題) 中学生のニーズを把握した説明会の開催(日程も含めて)	4	次年度は、オープンハイスクールの日程を2日から3日に増やし、増加傾向にある参加者に対応する予定。	・卒業生が多くお世話になり、学校の教育活動は保護者・生徒ともよく知っていることもあるが、初めて中学生を持つ保護者に、学校の特色を発信できればと思う。		